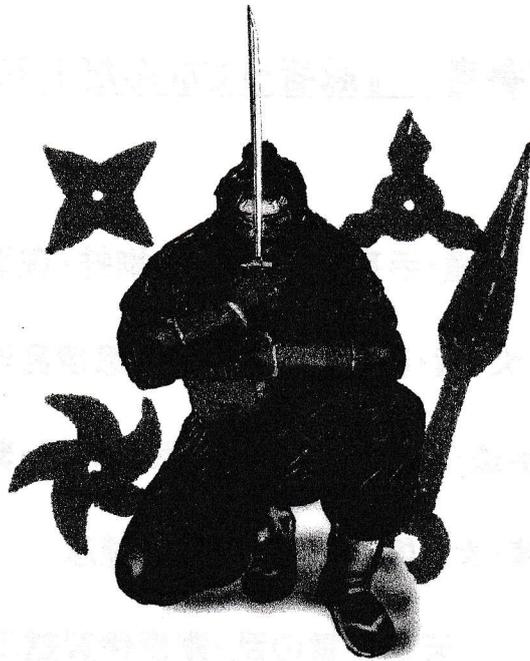


# 忍者ってなんだ！



月日:令和6年(2024年)10月5日

時間:10時~12時

場所:交野市青年の家 学びの館

講師:伊賀忍者研究会 代表 池田 裕

## 目 次

- 1: 甲賀隠術極秘
- 2: 忍町(1) ~ 3: 忍町(2)
- 4: 伊賀町(1) ~ 5: 伊賀町(2)
- 6: 伊賀路
- 7: 青山峠
- 8: 忍者のカタチ 池田 裕さん

## ご参考 『忍者ってなんだ!』の目次

第1章 忍術: 狼煙・手裏剣・撒菱・水蜘蛛・狸隠れ・狐隠れ・忍刀・鳥の子・忍松明・忍柿・猫・犬・猿・茶・合言葉・符丁・忍伊呂波・五色米・七方出・草・忍六具・飢餓丸・九字法・呼吸法・忍三病・忍人好機・紫陽花・斑猫・鳥兜・盗人萩・上忍・弟切草・女と男・忍返し・陽忍と隠忍

第2章 忍者歴史: 天正伊賀の乱・家康伊賀越え・萬川集海・鉤の陣・忍町・伊賀者・松尾芭蕉・役行者・百地磐・石川五右衛門・荒木又右エ門・観阿弥・御庭番・楠木正成・服部半蔵

第3章 八王子の忍者: 風魔忍者・大久保長安・土製撒菱・天狗・高尾山・千人同心・啄木鳥・独楽・手拭い

第4章 忍者コラム: 双忍の術・黒船の手紙?・陰陽師宮杉・忍者シーボルト・囹峠越

# 『甲賀隱術極秘』

すい / じん

おん 443

うら

抑甲賀の隱術未發を察する如の流儀の趣意は、隠は私也、微也、故

其術たる道其されば、狐狸幼徒の窺知る事不能、小芸博学百鍛千練  
其無叢の功を積むに不能、察術を行ふ

又色つ何梁意も入るに、至ては論、一我は、常の道を守り、短慮正道をなすと  
此欲て事元も博く高山に登りしむるを第一とす、

又聊も敵国にて万一事顯れ、たとへ桎梏又倒懸の責を受る共

扱すの流の教は、毎物の所生の根本見発を察するは第一と  
扱すの流の教は、毎物の所生の根本見発を察するは第一と

51

昔物に徳、善、悪、知、力、心、

## 忍町（しのびちょう）

## 忍者が住む屋敷がある町

伊賀と言えば忍者だ。私は忍者を研究しており、地名考では可能な限り忍者に関わる伊賀の地名を取り上げ忍者の実態を発表したい。全国にはかつて忍者が住んでいたと思われる地名が点在している。忍町、伊賀町、甲賀町などだ。つまり、全国に情報収集のために忍者が住んでいた町が存在した。忍町だけでも兵庫県姫路市、千葉県銚子市、石川県輪島市、青森県八戸市などに地名として残っている。

橋本政次「姫路市町名字考」に、寛文7年（1667）より播磨姫路藩主に転封した松平直矩まつだいらなおのりの時代の侍屋敷で忍町は「しのびまち」と呼ばれ、忍術を以て仕えた者が住んでいたと記される。『姫路市史』の「江戸時代侍屋敷図」にも忍町が記されている。

さて、伊賀の忍町であるが、現在は上野東忍町と

上野西忍町に分かれている。そして、伊賀上野城周辺の市街地では町を「ちょう」と「まち」に呼び分けている。武士の居住地であった忍、西大手、福居、徳居などを「ちょう」、武士以外が住んでいた紺屋、寺、鍛冶などを「まち」と呼ぶ。

寛永（1624〜44）や寛文（1661〜73）年間頃に作成された「伊賀上野城下絵図」に伊賀者の名が記されている。伊賀者は、かつては「忍び之者」「忍びの衆」と呼ばれていた。参勤交代での藩主の警備と江戸染井屋敷の際の警備、伊賀では領地の巡視や一揆等の情報収集を行っていた下級武士だった。

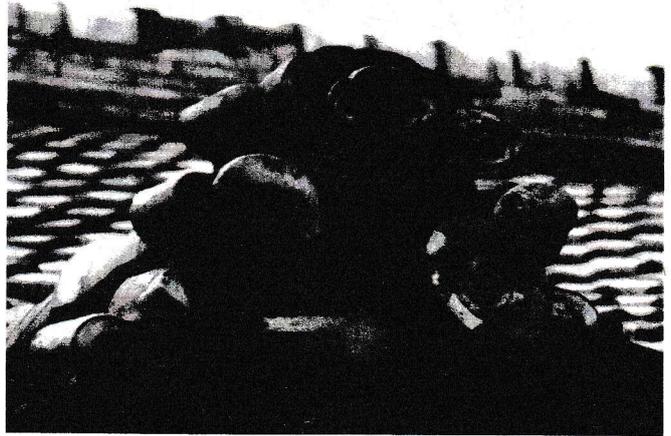
伊賀者には興味深いことが二つある。一つは藤堂藩に仕える武士は必ず頭領がいるが、伊賀者の場合は、一人一人が加判奉行に直属していた点が特異であり、

その役職の性格を推測する。もう一つは「忍びの衆」と申すことは世間の聞こえが悪いから、以後「忍びの衆」を「伊賀衆」「伊賀者」と呼ぶようにせよという藤堂藩の配慮があつた。忍町には伊賀者の曾我、柘植、服部、瀧、木津等の名が絵図に記されている。

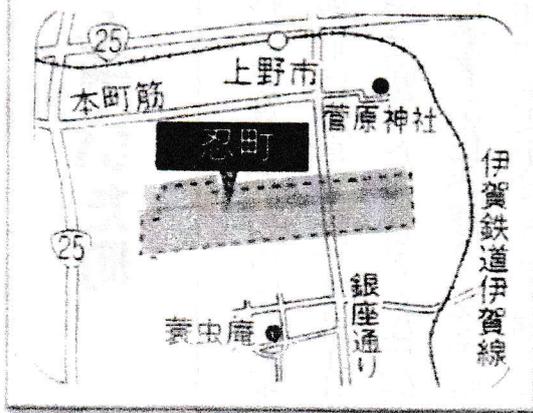
日本人は自分の個人情報オープンにしていることにアメリカ人は驚く。アメリカでは表札などはない。言われてみれば、その通りだと思つた。日本人はまだまだ個人情報の取り扱いが甘いと思つた。改めて忍町を歩くと、忍町公民館の鬼瓦に「忍」の文字が誇らしげに存在していた。

質問があつた。「忍町」と言うと、忍者が住む場所を教えることになるのではと。その事実を知るのは藤堂藩の武士階級の者であり、屋敷には表札などなかった。町民、農民は知る由もない。後年になって、かつて忍者が住んでいた場所が忍町と呼ばれるようになった。

(池田 裕)



忍町公民館の「忍」の鬼瓦



## 伊賀町（いがちよう）

## 伊賀忍者が住んでいた町

伊賀町はかつて三重県阿山郡に属していた。伊賀北東部あたりを指す。昭和34年（1954）3月に柘植町と春日村が合併して誕生したが、平成16年（2004）11月のいわゆる「平成の大合併」で伊賀町の名前が消えた。

伊賀町も忍町のように全国各地にその名を残していた。戦国時代から江戸時代にかけて、伊賀忍者が各地の大名が傭兵として雇われ、活躍した跡を残していたのだ。『日本地名辞典総索引』（平凡社）で伊賀町を調べると、多くの伊賀町が全国に存在していたことがわかる。東京都四谷、和歌山県和歌山市、愛知県岡崎、栃木県宇都宮、滋賀県彦根市、徳島県徳島市、島根県津和野町などに伊賀町があった。

例えば、徳島市伊賀町は「伊賀士町」と記され、蜂

須賀家に召し抱えられた伊賀忍者が居住した地であったという。彦根市伊賀町は慶長19年（1614）、大坂冬の陣で井伊家の元で活躍した伊賀者が住んでいた町だ。三重名張より伊賀者が住み移り、その町を伊賀町と呼んでいた。昭和47年（1972）に錦町という名になり、かつてこのあたりに伊賀町があったという石の記念碑だけが残っている。

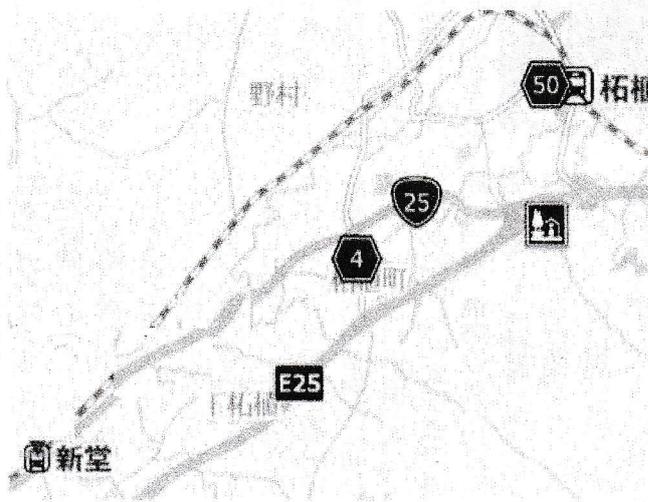
『萬川集海』<sup>「まんせんしゅうかい」</sup>という忍術秘伝書がある。延宝4年（1676）に、藤林佐武次保武が編纂した。名ある忍家のみ秘蔵し門外不出のいわばバイブルであったと言っても過言ではない。代々書写し子孫に伝えたという。実際に今なお伊賀においては、伊賀者子孫の一部の家で「虎の巻」等の名で残されている。『萬川集海』の意味は、その名が表すごとく、全ての川が海に注ぐ如くつまり、

忍術はすべての兵法、武術の奥義が集大成されたもので、伊賀・甲賀の四十九流となっている。『萬川集海』の「忍問答」に、有名な忍者十一人の名を聞いたところ、以下の忍者の名が記されている。「野村ノ大炊孫太夫、新堂ノ小太郎、楯岡ノ道順、下柘植ノ木猿・小猿、上野ノ左、山田ノ八右衛門、神部ノ小南、音羽ノ城戸、甲山ノ太郎四郎、同太郎左衛門の十一人の忍者が有名であり、当時は伊賀・甲賀を合わせて、忍の流儀が四十九流あった」と答えている。

問曰拾一

人ノ隠忍ノ上キノ名ヲ聴シ 答曰野村ノ大炊  
 孫太夫新堂ノ小太郎楯岡ノ道順下柘植ノ木  
 猿上野ノ左山田ノ八右衛門神部ノ小南音  
 羽ノ城戸甲山ノ太郎四郎同太郎左衛門是等拾  
 一人ナラテハ本トイヘ尺道頂刀一流四十八流成リ  
 故ニ當代忍ノ事ヲ云フ者伊賀甲賀ニ忍ノ流義  
 四十九流アリト云ナリ

「萬川集海」拾一人ノ隠忍



特筆するのは11人中5人の出身の地「野村、新堂、楯岡、下柘植(2人)」が今も残る地名であることだ。伊賀町の地には、かつて戦国時代に名を轟かせた忍者が住んでいた。その5人がいた地はJR関西本線新堂駅から柘植駅の間集落になる。忍者が住んでいた場所を歩いてみたらどうだろうか。

(池田 裕)



# いが地名考

▶607

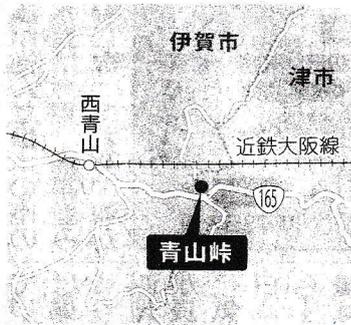
## 青山峠

小学校6年生の時、私は大阪に住んでいて修学旅行で伊勢に行ったことを覚えてい

る。大阪上本町駅から近鉄電車の2階建て車両があるピスタカーに乗り、伊勢に行った。覚えてい

るのは、2泊3日で赤福餅をお土産で買ったことだけだ。

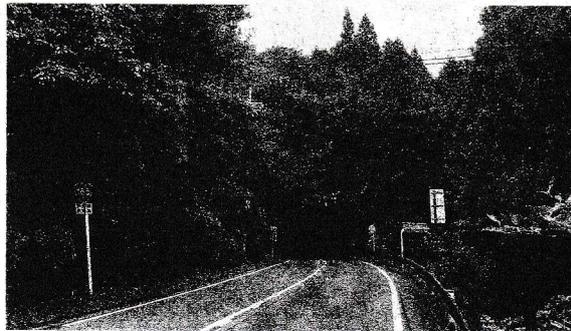
江戸時代、伊勢への旅は庶民の憧れだった。旅はお金がかかるので庶民は「伊勢講」という組織を組み、旅費を積み立て、毎年代表者を参拝に送り出していた。伊勢参りが人気になると奉公人などが突



然思い立って伊勢参りに行くことだけは「抜参り」とか「お蔭参り」として許されたという。

また、お金を持たない旅人に施行(物を施し与えること)が徳を積むことになるので、道中施行も盛んに行われていたという。そういえば、アメリカの友人がラマダン(断食

## 伊勢参り最大の難所



青山峠の下を貫く国道165号の青山トンネル(伊賀市で)

月)の時、お金を寄付すると言っていた。よく似た考えが世界中にはあるのだと思っ

た。さて青山峠であるが伊賀・伊勢の国境にあり、青峠とも呼ばれた。伊勢路宿から垣内宿まで布引山地を横断する青

山(約12キ)が道中最大の難所であった。峠を挟み伊賀茶屋と伊勢茶屋があった。近世は伊勢参りや長谷寺参詣の往来が盛んになった。峠には石造の道分地藏が鎮座する。本居宣長は1772年(明和9年)に弟子と吉野旅行をする際に、この青山峠越えの様子を「菅笠日記」に記している。

「ここよりゆくさきは、伊賀国伊賀郡也。おほかた此山路は、かの過(こ)し垣内より、伊勢地といふ所迄、三里がほどつづきて、ゆけどゆけどはてなきに、雨もいみじうふりまさり、日さへ暮はてて(中略)からうじて伊勢地の宿にゆきつきたる」

現在は国道165号と近鉄大阪線がこの峠の下をトンネルで抜け、伊勢までの道のり

が楽になっていく。旧来の峠道は草に覆われている。

近鉄大阪線西青山駅がある。この駅は1975年(昭和50年)、元の場所から1.1キ西に移転された。新駅周辺には民家もなく、ここを降りる人はハイキングか乗馬クラブクレーン三重に用のある人だけだろう。事実1日の乗降客はわずか十数人だという。この乗馬クラブがかつての西青山駅であった。また、すぐ近くに青山大師と呼ばれる霊場があった。大きな杉があり、この前に伊賀茶屋があり、多くの人が往來したことがうかがえる。

今度、松阪にある本居宣長記念館を訪れ、もっともっと、宣長のことを学びに行こうと思った。

(伊賀の國地名研究会 池田裕)

# 伊賀



### 伊賀上野支局

〒518-0861 伊賀市上野東町2925  
キクワビル2F

☎(代)0595-21-5143 FAX 21-5435

名張通信部 ☎0595-64-3430

### ホームページ

www.yomiuri.co.jp/local/mie/

名張 ☎0595-65-6364

青山 ☎0595-52-2200

伊賀上野 ☎0595-24-1638

伊賀中央 ☎0595-24-9394

# 黄金の鯖

焼鯖すし 若廣

株式会社 若廣 福井県小浜市川崎1-3-5



読者会員登録で大阪本社版朝刊の各

地域版が無料でご覧いただけます

2次救急(重症)当番病院

【2日】岡波総合病院(伊賀市上之庄271-1) ☎05

### 県内の交通事故

31日(県警)

発生	1件
死者	0人
負傷者	1人

24年死者	28人
前年同期	43人

95・21・3135) 午後5時  
翌日午前9時

# 忍者のカタチ

8月

# 移住し調査の成果 入門書に

「忍者は犬が嫌い」「水蜘蛛は浮輪で一つだけ使うのが真実」。そんな忍者に関するさまざまな話題を一冊にまとめた「忍者ってなんだ!」(搖籃社)が刊行された。

著者は忍者愛好家らでつくる「伊賀忍者研究会」の代表、池田裕さん。「子どもも読める入門書に仕上げた。忍者に興味を持って語れるようになってくれた

だ!」を共作し、全4章のうち「忍術」「忍者歴史」「忍者コラム」の3章を池田さんが担当。遠藤さんが「八王子の忍者」の章を執筆した。

新著では忍者が暗号として使った「五色米」や、織田信長の軍勢が伊賀に攻め入った「天正伊賀の乱」など盛り上がった。意気投合した2人は「忍者ってなんだ!」と交流サイト(SNS)上で知り合い、忍者の話題で盛り上がった。意気投合した2人は「忍者ってなんだ!」と交流サイト(SNS)上で知り合い、忍者の話題で盛り上がった。意気投合した2人は「忍者ってなんだ!」と交流サイト(SNS)上で知り合い、忍者の話題で盛り上がった。

## 伊賀忍者研究会

### 代表・池田 裕さん

伊賀 12



ど忍者に関するあらゆる話題を取り上げた。一つの話や「カムイ伝」などに影響を受けた。大学を卒業し、大阪府内の高校に英語教諭として勤めるようになってからも、大阪から伊賀に通い郷土史を調べた。

池田さんは今年22日、伊賀市役所を訪れ、市内の全小中学校28校と上野図書館に30冊を贈った。26日には名張市にも21冊を寄贈。市内の小中学校19校と市立図書館に配られる。

池田さんは「現代忍者」イ賀に移住した。現在は三重県内の高校で英語を教えている。

を自称する。隠密行動に徹した忍者の実像に近付くため、年齢や詳しい住所は公表しない。代表を務める伊賀忍者研究会は99年、忍者に関する知識を普及させようと自身で立ち上げた。主な活動は、忍者に関するイベントの開催や本の刊行など。約10年前からは持ち前の英語力を生かし、自ら米国や英国、台湾などで講演を開いている。

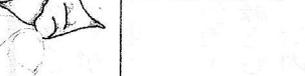
堺市生まれの池田さんは

池田さんは「現代忍者」

池田さんは「伊賀に住み、自分の言葉で忍者について語ることができると強みがある。忍者を伝えていく後継者を育てていきたい」と力を込める。

「忍者ってなんだ!」は、伊賀市内の岡森書店白鳳店(平野西町)や伊賀流忍者店(上野愛宕町)、むらい萬香園(上野小玉町)のほか、アマゾンで購入できる。税込み1100円。80ページ。池田さん090(7699)2117 (鈴木義人)

3 撒菱



忍者は逃げる時に使う、余れば食べる

忍者は逃げるプロフェッショナル。手に入れた情報を確実に持って帰るために、あらゆる逃走するための術を使った。その「撒菱の術」がある。

撒菱は武器である。菱の種子を忍者は逃走術として使った。撒菱という種類の菱の実を乾燥させ、逃げる際にばらまく。撒菱は4方向すべてが尖っている。2方向だけ尖っているヒシはよく見られ撒菱という。しかし、撒菱は夏つけるのがけつこう難しい。4本ある刺針の先端部から逆刺が両端に並び、鳥の羽毛や羽に絡みつくや容易に外れず、菱の実は長距離に渡って運ばれる。

ところで撒菱は忍者だけが使ったものではなく、西洋でも使われカトルップという。語源は「足への民」といい、馬や人の足裏に怪我を負わせる目的の武器であった。中国でも使われていた。近年では車のタイヤをパンクさせる目的で使うものもある。ちなみに菱は菱葉と呼ばれ塩茹すると栗のような味になる。また菱が菱形なので「三菱」「四菱」は誰もが知っているだろう。

(1) ひつまつしの竹筒とよまていからしれたいひつまつしの後、トングで撒菱をばらまく。 (2) 英: shuriken, a plant of the genus. (3) 北九州地方では八百で売られている。

一つの話が1ページで完結する「忍者ってなんだ!」

水蜘蛛



忍者は一つしか使わなかった

忍者は様々な忍具を臨機応変に忍術に使っていた。「萬川集海」では忍具は「登器、水器、開器、火器」の4つに分類される。それらは戦うための忍具ではなく、侵入・逃走・情報発信・情報収集のための忍具だ。

水蜘蛛で忍者が雪の上を歩く様のように水面を歩いたという。聖だ。それは漫画や映画で創られたものだ。

数年前民報番組のディレクターが水蜘蛛について教えて欲しいと言われ、私と弟子で数日間かけて水蜘蛛を2つ作成した。その水蜘蛛で伊賀上野城の庭で実験することになった。まだ3月の寒い時期だった。私自身が実験をするのは寒い嫌だったので、彼に挑戦してもらった。結果は数秒で水没だった。当然のことながら2つ使ったと左右に足が開いてしまっ進むことは不可能である。

水蜘蛛は浮き輪で一つだけ使うのが真実。両足に下駄のようなヒレをつけ、手はオールのように使い前進する。世の中には謎の忍術が溢れている。くれぐれも疑われないようにして欲しい。

(1) 彼は水蜘蛛の作り方を教えてくれた。 (2) 私は本誌の2000年にも伊賀の運動中学校の生徒と実験した。